

平成23年5月26日

島田市保育園・幼稚園保護者 様  
小学校・中学校保護者 様

島田市教育委員会  
委員長 染谷絹代

(島田市教育委員会からの提言)



### 「何か、しましうか」

先日こんなことがありました。はじめて訪ねる道で迷ってしまい、車を止めて地図を広げていたときです。窓越しに声がしました。「何かお困りですか」—。そこには小学校の高学年らしい少年の顔がありました。事情を話すと、「ぼくじゃわからないから」と、家へかけこみました。すぐに祖父の手を引いてもどって来た少年は、説明してくれる祖父のそばでにこにこしていました。

「何かお困りですか」——、家に帰ってからもその言葉が何回もよみがえってきました。

東日本が大地震に見舞われて、私たちはごく自然に「何かしなくては」とか「何かしよう」と思い立ちました。多くの人々がそのような思いになり、それは世界的な動きにもなっています。しかし、私たちは、大地震という特別なことが起こらなければ、そのような思いにならなかったのでしょうか……。確かに、これまで私たちはあまりに自己中心的であり、地域や人のことには無関心になりがちだったように思います。

今回の人道的危機ともいわれる大地震によって目覚めさせられた一つのことは、**普段の生活の中でも**、「何か、しましうか」という気持ちを持つことの大切さではないでしょうか。**「何か、しましうか」という心遣いを習慣として身につける**ことではないでしょうか。身近なところで、大人も子どもも——。